

令和5年12月8日

智頭町議会議長 谷口 雅人 様

総務常任委員長 谷口 翔馬

委員会調査報告書

本委員会の調査事件について調査を実施したので、智頭町議会会議規則第77条の規定により、下記のとおり報告します。

記

1. 期 日

令和5年11月16日(木)～令和5年11月17日(金)

2. 場 所

- (1)千歳市防災学習交流センター そなえーる
- (2)厚真町役場 議会会議室

3. 内 容

- (1)千歳市における防災の取り組み
- (2)厚真町における子育て支援と定住対策の取り組み

4. 派遣委員

田中 賢 議員、谷口 翔馬 議員、波多 恵理子議員、大河原 昭洋議員
谷口 雅人 議員

5. 所感等

(1)千歳市における防災の取り組み

千歳市防災学習交流センター「そなえーる」は、災害を「学ぶ・体験する・備える」をキーワードに、いろいろな災害の疑似体験をしながら、防災に関する知識や、災害が発生したときの行動を学ぶとともに、防災講座や救急講習、自主防災組織の訓練など防災学習の拠点施設として活用されている。

施設の概要説明を受けた後で展示コーナーに移動し、地震体験コーナーでは東日本大震災や胆振東部地震など、過去に起きた震度7クラスの大地震の揺れを実際に体験し、他にも煙を充満させた建物内からの避難行動なども体験することができた。

近年、全国各地で頻発している地震や豪雨災害などの自然災害は、忘れた頃にやってくると言われるように、常に防災という意識を持ち続けることの重要性を改め

て認識し、本町においてもいつ災害が発生するとも限らないなか、災害から身を守る、自助共助、公助などについても更なる防災学習の必要性を感じた。

また、このような施設の有効性は自主防災組織の組織率が70%強と高い所にも現れており、同様の施設は持てないものの防災をテーマにしたイベント等を通じて町民の防災意識の向上をはかる必要性を感じた。

(2) 厚真町における子育て支援と定住対策の取り組み

厚真町は北海道の南西部に位置し、南北に細長く太平洋に面しており、人口は令和5年6月末現在で4,333人である。もともと別荘の建設など、本州からの人の流れはあったものの、「心に豊かさを実感する町」として、平成18年に移住ワンストップ窓口を開設し、移住定住施策を本格化している。これまでに5個所に分譲地を順次整備し、合計584区画の整備が行われている。他にも、町外から転入する子育て世帯を応援する専用の賃貸住宅が、4個所に35戸整備されている。家賃補助も充実しており、基準額56,000円/月から18歳以下の子ども1人につき5,000円が控除される。

厚真町役場職員の約50%は町外出身者で構成されているということであり、全てではないと思うが町に魅力を感じ移り住み、家建ててそこに住み続けるという定住率の高さに驚きを感じた。また、社会増の要因の1つに地域おこし協力隊の存在があり、積極的に登用してこれまでに80名の委嘱が行われている。特筆すべきは定住率の高さにあり、任期が来て退任したのが46名で、その内27名が定住、世帯人数を含めると70名が定住している。

前述した子育て支援住宅の建設地4個所の内、2個所15戸は分譲地内に建設されており、子どもが18歳を迎えると転居となるが、同じ造成地内に分譲区画があることから定住率の高さに結びついている要因と言える。地域おこし協力隊の定住率に関しても、町はあらかじめ活動内容を決めず、応募者がやりたいことで地域活性化や起業できるようローカルベンチャースクールによる起業型人材育成が行われていることが定住の決め手のようだ。

本町も若者支援住宅がこれまでに5棟建設され、新たに3棟建築中であるが、ほぼ同じデザインであることから、今の若者のニーズには合致しないのではないかと思う。厚真町の子育て支援住宅のように、ほぼ同じデザインであっても壁の色を変えており、本町も木造であっても屋根の色を変えるなどの工夫も必要に感じ、基本的な人口減少対策は「子育て支援」である事を実感した調査視察であった。